

愛知県公立大学法人 第四期中期計画進捗管理表(2025年度実績)

県立大学

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
1	予測困難な時代において、多角的な視点をもって物事の複雑さを理解し、自らの考えで問題を見極め、主体的に行動できる人材を育成するため、本学の特色を活かした文理横断・領域横断型教育を推進する。 【重点的計画】	①新たな文理融合領域の設置に向けた高校生向けニーズ調査を実施し、学士課程の改革方針を策定する。	定性的 (ニーズ調査実施及び改革方針策定)	計画	ニーズ調査方針検討	改革方針検討	改革方針策定	改革実施	検証	検証・見直し
				実績	○					
				備考						
		②複数の研究科間において、カリキュラムをブリッジして相互履修を促進する仕組みを第四期最終年度までに構築する。	定性的 (仕組み構築)	計画	仕組み検討(看護・人間)	仕組み構築	中間評価・仕組み改善	相互履修・聴講の継続	→	総括・改善
				実績	○					
				備考	※看護:看護学研究科／人間:人間発達学研究科					
2	急速に変化する社会情勢の中で、文理の枠にとらわれない豊かで柔軟な発想により、新たな価値を創造する人材を育成するため、愛知県立芸術大学との連携による教育を推進する。	①2大学の連携による講座・企画を第四期終了時点までに10件以上実施する。	定量的 (講座・企画累計10件以上)	計画	1件 累計1件	2件 累計3件	2件 累計5件	2件 累計7件	2件 累計9件	1件 累計10件
				実績	3件 累計3件					
				備考						
		②教養教育科目において、単位化を伴う2大学の連携授業を新たに1科目以上開講する。	定量的 (連携科目1科目以上)	計画	(検討)	→	1科目 累計1科目	→	→	→
				実績	—					
				備考						
3	多様な専門分野において数理・データサイエンス・AI等のリテラシーやデジタル技術を活用し、幅広い視野から課題にアプローチできる人材を育成するため、全学必修科目「データサイエンスへの招待」等の教養教育科目の検証とさらなる展開に取り組むとともに、デジタル技術を活用した教育を推進する。	①デジタル技術の活用に関する講座・企画を第四期終了時点までに6件以上実施する。	定量的 (講座・企画実施件数累計6件以上)	計画	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	1件 累計4件	1件 累計5件	1件 累計6件
				実績	2件 累計2件					
				備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
		②デジタル技術の活用に関する科目の第四期終了時点の履修者総数を、第三期中期目標期間中より増加させる。	定量的 (第三期より履修者総数増加)	計画	→	→	→	→	→	履修者総数 三期超え
				実績	1,135人					
				備考	※第三期履修者総数:3,077人					
4	異なる文化的背景を持つ人々と共感力をもって協働し、地域・国際社会で活躍する人材を育成するため、異文化理解の促進や外国語運用能力の向上のための専門教育を推進する。	①異文化理解促進のための科目を、第四期終了時点までに全学で新たに3科目以上設置する(大学院科目を含む)。	定量的 (新設科目3科目以上)	計画	2科目 累計2科目	→	1科目 累計3科目	→	→	→
				実績	2科目 累計2科目					
				備考						
5	グローバルな視点を持って国際社会や地域社会で活躍できる人材を育成するため、国際戦略方針に基づき、海外大学・留学生との交流機会や、多文化・多言語に触れる機会を全学生向けに創出する。	①海外で実施するプログラム等への参加学生数について、第四期中期目標期間の平均値が第三期最終年度の参加学生数を上回る。	定量的 (第三期より参加学生数平均値増加)	計画	→	→	110%	110%	120%	120%
				実績	97.0% (228人)					
				備考	※第三期最終年度参加学生数:235人					
		②第四期終了時点までに異文化交流企画(グローバルセミナー、iCoToBaイベント、留学報告会)を200回以上、iContact*を4,500回以上実施する。 *iContact:留学生やネイティブ教員とのコミュニケーションタイム	定量的 (企画累計200回以上、iContact4,500回以上)	計画	(i)33回/ (ii)750回	(i)66回/ (ii)1500回	(i)100回/ (ii)2250回	(i)133回/ (ii)3000回	(i)166回/ (ii)3750回	(i)200回/ (ii)4500回
				実績	(i)52回/ (ii)1043回					
				備考	※回数は累計、(i)異文化交流企画／(ii)iContact					
6	地域・世界の情勢を踏まえ、社会のニーズに的確に対応するため、地域や海外等の多様な主体と連携し、本学の特色を活かした教育プログラムを充実させる。 【重点的計画】	①地域や海外等の学外機関との連携教育プログラムを、第四期終了時点までに新たに2件以上実施する。	定量的 (新設プログラム2件以上)	計画	(検討)	1件 累計1件	→	→	1件 累計2件	→
				実績	—					
				備考						

定性的指標:「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標:「—」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
7	自ら問いを立て、課題解決のために主体的に行動する人材の育成に向け、その基盤となる、自ら考え発想する力、他者と協働する姿勢、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力、物事の本質を捉える力、斬新で革新的な発想力や課題解決能力を涵養するため、アントレプレナーシップ教育や課題解決型授業(PBL型授業)を拡充する。	①専門教育科目における課題解決型授業(PBL型授業)の履修者総数を、全学部において第三期目標期間中より増加させる。	定量的 (第三期より履修者総数増加)	計画	→	→	→	→	→	履修者総数 三期超え
				実績	5,586人					
				備考	※第三期履修者総数(延べ):29,860人(年間平均4,977人)					
		②アントレプレナーシップ関連科目を拡充する。	定性的 (科目拡充)	計画	現況把握 分析	既設科目 見直し	科目設置 準備	科目設置 (拡充)	→	総括・改善
				実績	○					
				備考						
8	学修者本位の教育を推進するため、目指す姿・修得できる能力を踏まえた主体的な学びを実現できるよう、学修成果の可視化・分析に取り組み、学修時間の確保や教育体制等に留意しながら、組織的な教育改善を進める。	①eポートフォリオを活用して教育及びディプロマ・ポリシーの点検・評価、必要に応じた改善を行う仕組みを構築する。	定性的 (教育及びDP点検・評価、改善の仕組み構築)	計画	仕組み検討	仕組み構築	仕組み 実施	仕組み 検証・改善	仕組み 実施継続	総括・改善 DP点検評価
				実績	○					
				備考						
		②卒業時アンケート結果をもとに教育及び3ポリシーの点検・評価、必要に応じた改善に取り組み、その結果を毎年度公表する。	定性的 (毎年度教育及び3ポリシーの点検・評価、改善、公表)	計画	点検・評価 改善、公表	点検・評価 改善、公表	点検・評価 改善、公表	点検・評価 改善、公表	点検・評価 改善、公表	点検・評価 改善、公表
				実績	○					
				備考						
9	急速に変化する社会情勢や地域社会のニーズを踏まえ、学部・研究科組織のあり方について検証し、見直しを図る。	①新たな文理融合領域の設置に向けた高校生向けニーズ調査を実施し、学士課程の改革方針を策定する。 ([1]-①再掲)	定性的 (ニーズ調査実施及び改革方針策定)	計画	ニーズ調査 方針検討	改革方針 検討	改革方針 策定	改革実施	検証	検証・見直し
				実績	○					
				備考						

定性的指標:「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標:「-」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
10	学内のリソースを生かした特色ある教育の充実に向け、文理横断・領域横断型教育等を推進するための教育体制・人員配置等について検証し、必要に応じて見直しを図る。	①文理横断・領域横断教育を推進するための教育体制・人員配置等に関する改革方針を策定する。	定性的 (改革方針策定)	計画	改革方針検討	→	改革方針策定	方針のもと新体制開始	検証	検証・見直し
				実績	○					
				備考						
11	これまでの学生支援に関する取組状況や学生の多様なニーズを踏まえ、ダイバーシティ＆インクルージョンの視点から学内支援の体制や取組の検証、見直しを行う。	①ダイバーシティ＆インクルージョンに係る方針を策定し、公表する。	定性的 (方針策定、公表)	計画	方針策定	公表・実施	実施	→	→	総括・見直し
				実績	○					
				備考						
		②ダイバーシティ＆インクルージョンの視点から、学生支援の体制や取組に関する改善方策を第四期終了時点までに4件以上実施する。	定量的 (改善方策4件以上)	計画	(検討)	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	1件 累計4件	→
				実績	—					
				備考						
12	3つのポリシーやこれまでの入試結果の検証・分析を行い、入学者選抜方法の見直しを行う。また、外国にルーツを持つ生徒など多様な入学者の確保に向け、入試制度・出願方法の検証、見直しを行う。	①外国語学部において導入する「外国にルーツを持つ生徒」を対象とした入試について、全学部において方針を策定する。	定性的 (方針策定)	計画	外国語学部入試実施	各学部へ共有・検討	→	各学部方針検討	→	各学部方針策定
				実績	○					
				備考						
		②各学部・研究科において、データに基づく入学者選抜方法・入試制度・出願方法の検証、分析を行い、入学者選抜方法・出願方法の見直し、新たな入試制度の導入を行う。	定性的 (新たな入試制度の導入)	計画	外国語学部新入試導入	教育福祉学部新制度導入	新設学群入試導入	データ分析検証・見直し	→	→
				実績	○					
				備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
13	高校生・高校教員・保護者等のターゲット別の入試広報戦略を策定し、実施する。	①志願者に関するデータ分析や入学後の学生の成長に関する分析を行い、その結果に基づく入試広報戦略を毎年度策定する。	定性的 (毎年度入試広報戦略策定)	計画	分析戦略策定	分析戦略策定	分析戦略策定	分析戦略策定	分析戦略策定	分析戦略策定
				実績	○					
				備考						
		②志願者以外のステークホルダーに対する取組を、第四期終了時点までに新たに2件以上計画し、継続的に実施する。	定量的 (取組実施件数2件以上)	計画	(検討)	→	2件	→	→	→
				実績	—					
				備考						
14	社会課題の解決に資する研究や研究成果の社会実装に向け、研究者の交流機会・場の創出などにより、これまでの共同研究等の成果を踏まえた分野横断型共同研究、愛知県立芸術大学を含む他大学や企業・地域等学外との共同研究のさらなる推進を図る。	①学内の助成制度として「分野横断型共同研究(仮称)」枠を新設し、第四期終了時点までに5件以上実施する。	定量的 (助成制度実施件数5件以上)	計画	(検討)	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	1件 累計4件	1件 累計5件
				実績	3件 累計3件					
				備考						
		②研究所活動及び教員個人の研究活動の拡大・促進に向けた新たな施策を、第四期終了時点までに4件以上実施する。	定量的 (新たな施策実施件数4件以上)	計画	1件 累計1件	1件 累計2件	→	1件 累計3件	1件 累計4件	→
				実績	2件 累計2件					
				備考						
		③地域貢献に資する研究を促進するため、新たな評価制度を全学的に構築する。	定性的 (新たな評価制度構築)	計画	評価制度見直し	新評価制度構築	実施	評価・改善	→	総括・改善
				実績	○					
				備考						

定性的指標: 「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標: 「—」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
15	本学の研究における強みなどの分析に基づき、外部資金獲得に向けた戦略を策定し、外部資金獲得件数の増加を図る。 【重点的計画】	①外部資金獲得増に向けた方針を2026年度末までに策定し、研究推進局を中心とした研究支援体制を強化する。	定性的 (方針策定)	計画	検討	方針策定	実施	評価・改善	→	総括・改善
				実績	○					
				備考						
		②研究に係る外部資金獲得件数を、第三期最終年度と比較して、第四期終了時点までの6年間で、増加分合計を60件以上とする。	定量的 (第三期最終年度より外部資金獲得件数増加分件数60件以上)	計画	増加分累計 8件 (222件)	増加分累計 16件 (222件)	増加分累計 26件 (224件)	増加分累計 36件 (224件)	増加分累計 48件 (226件)	増加分累計 60件 (226件)
				実績	増加分累計 21件 (235件)					
				備考	※第三期最終年度外部資金獲得件数:214件					
16	地域の課題解決につなげるため、研究成果を地域社会に還元する取組を推進し、その成果を効果的に発信する。	①学術研究情報センター企画のイベントの参加者数、学術リポジトリへの研究成果の登録件数の各総数を、第三期中期目標期間中より増加させる。	定量的 (第三期より参加者総数、登録件数増加)	計画	→	→	→	→	→	(i)(ii)総数 三期超え
				実績	(i)468人 (ii)326件					
				備考	※(i)イベント累計参加者数 第三期累計:2,919人(年間平均487人)／(ii)学術リポジトリへの累計登録件数 第三期累計:1,717件(年間平均287件)					
17	愛知県をはじめ、自治体、他大学、産業界、地域社会など多様な主体と本学教職員との連携による地域の課題解決に向けた取組を推進する。	①産官学金との連携による地域課題の解決に向けた企画(※MAPU／RmAPU:地域課題相談)を、第四期終了時点までに6件以上実施する。	定量的 (企画累計6件以上)	計画	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	1件 累計4件	1件 累計5件	1件 累計6件
				実績	2件 累計2件					
				備考						
18	愛知県が設置する併設型公立中高一貫校をはじめ、高校との高大連携事業を積極的に推進する。	①組織的な高大連携に関わる取組を第四期終了時点までに5件以上実施する(継続分含む)。	定量的 (取組実施5件以上)	計画	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	中間評価 課題検討	1件 累計4件	1件 累計5件
				実績	2件 累計2件					
				備考						

定性的指標:「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標:「-」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
19	地域のニーズを踏まえた公開講座、看護実践セミナー等を引き続き実施するとともに、リカレント教育プログラムの実施体制を整備し、事業の定着、充実化を図る。また、これらの一般・社会人向けの生涯学習事業を本学の主要事業として推進、発信できる仕組みづくりを行う。	①2027年度までに「愛県大リカレント教育方針」を策定し、実施体制を整備する。	定性的 (方針策定)	計画	リカレント教育 方針策定	方針策定・ 実施体制整備	実施体制 整備	実施	→	検証・見直し
				実績	△					
				備考	[未達理由等]全学への意見聴取等を丁寧に重ねた結果多くの意見があったため、それらを反映させたうえで、2026年4月に方針策定。					
		②リカレント教育のプログラム・講座を第四期終了時点までに70件以上実施する。	定量的 (講座等実施 件数70件以上)	計画	10件 累計10件	12件 累計22件	12件 累計34件	12件 累計46件	12件 累計58件	12件 累計70件
				実績	14件 累計14件					
				備考						
20	地域と連携して本学学生等のスタートアップ関連活動を支援するため、新たにインキュベーション施設を整備するとともに、運営体制を構築し、関連する取組を推進する。 【重点的計画】	①インキュベーション施設を整備するとともに運営体制を構築する。	定性的 (施設開設、 体制構築)	計画	情報収集	制定	施設開設 体制構築	評価・改善	→	総括・改善
				実績	○					
				備考						
		②スタートアップやアントレプレナーシップ関連企画を、第四期終了時点までに6件以上実施する。	定量的 (企画実施件 数6件以上)	計画	(検討)	→	1件 累計1件	1件 累計2件	2件 累計4件	2件 累計6件
				実績	—					
				備考						
21	大学の知名度の向上や大学のブランド力強化に向け、学内の地域連携・貢献活動の情報を集約するとともに、地域住民をはじめとした学外者の本学の教育研究・地域連携活動への参加を促す取組を推進し、様々な手法により本学の活動情報を発信する。	①公開講座終了後のアンケートにおいて、満足度が5段階評価で4以上と回答する参加者の割合を毎年度80%以上とする。	定量的 (毎年度 80%以上)	計画	80%	80%	80%	80%	80%	80%
				実績	93%					
				備考						

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準	進捗状況						
				2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
		②本学の研究を紹介(発信)する取組・活動への学外参加者の総数を第四期終了時点で600人以上とする。	定量的 (参加者総数 累計600人以上)	計画	100人 累計100人	100人 累計200人	100人 累計300人	100人 累計400人	100人 累計500人	100人 累計600人
				実績	209人 累計209人					
				備考						

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある ／ 定量的指標：「－」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
22	芸術文化に携わる優れた人材育成に向け、芸術大学に相応しい特色ある授業科目の開発を行うとともに、アントレプレナーシップ教育を含むキャリア支援教育を推進する。 【重点的計画】	①美術学部、音楽学部の両学部及び美術研究科、音楽研究科の両研究科に跨った特色ある科目(アントレプレナーシップ教育、複合芸術研究、インクルーシブ・アート等)を全学的に展開する。	定性的 (横断型の特色ある科目の全学展開)	計画	履修規程改正 (次年度施行)	開講・運用 (全学展開)	運用・検証	→	必要に応じ 再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						
		②両学部が履修可能なキャリア教育科目を新設する。	定性的 (キャリア教育科目新設)	計画	履修規程改正 (次年度施行)	新設・開講	運用・検証	→	必要に応じ 再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						
23	芸術活動の礎を築き地平を広げるリベラルアーツ教育を目指し、芸術大学としての特殊性・時代や学生のニーズに合わせて、開講科目の整理・統合・開発及び学部教育との連携を推進するとともに、愛知県立大学とのさらなる教育連携を推進する。	①教養教育の在り方を見直し、初年次教育を導入する。	定性的 (初年次教育導入)	計画	履修規程改正 (次年度施行)	初年次教育 導入(開講)	運用・検証	→	必要に応じ 再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						
		②2大学の連携による講座・企画を第四期終了時点までに10件以上実施する。([2]-①再掲)	定量的 (講座・企画 累計10件以上)	計画	1件 累計1件	2件 累計3件	2件 累計5件	2件 累計7件	2件 累計9件	1件 累計10件
				実績	3件 累計3件					
				備考						
		③教養教育科目において、単位化を伴う2大学連携授業を新たに1科目以上開講する。([2]-②再掲)	定量的 (連携科目1 科目以上)	計画	(検討)	→	1科目 累計1科目	→	→	→
				実績	—					
				備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
24	大学院教育において、美術界や音楽界の中核として、その優れた芸術活動力を論理的整合性を持って社会に発信できる人材の育成に向け、高度かつ魅力のある専門教育を実践する。	①美術研究科において、研究論文のレベル向上を図るための授業を設定する。	定性的 (研究論文のレベル向上を図る授業設定)	計画	学内・他大学調査	準備	実施	検証・改善	運用	検証・改善
				実績	○					
				備考						
		②音楽研究科において、大学院生による学会発表の件数を毎年度2件以上とする。	定量的 (毎年度発表件数2件以上)	計画	2件	2件	2件	2件	2件	2件
				実績	1件					
				備考	[未達理由等]院生の実績は1件。2026年度より博士後期課程にて研究論文の向上を目的とした授業を開講。なお、優秀な学部生による学会発表があった(1件)。					
25	より多くの学生が国際的な視野を身に付け、活躍の場を広げるための支援を行うとともに、芸術大学としての国際的な魅力を高めるための海外交流事業を推進する。	①派遣留学の支援体制を強化し、専門分野の学びを目的とした協定校への留学生を毎年度3名以上派遣する。	定量的 (毎年度派遣者数3名以上)	計画	3名	3名	3名	3名	3名	3名
				実績	4名					
				備考						
		②毎年度、学生が参加する国際交流プログラムを3件以上実施する。	定量的 (毎年度実施件数3件以上)	計画	3件	3件	3件	3件	3件	3件
				実績	6件					
				備考						
26	教員による自己点検評価、学内FD研修会等の実施内容、実施方法、フィードバックについて綿密かつ具体的な検討を行い、教育力の向上に繋がるFD活動を展開する。	①芸術大学に相応しいテーマの全学FD研修会を毎年度実施し、アンケートにおいて満足度が5段階評価で4以上と回答する参加者の割合を80%以上とする。	定量的 (毎年度評価4以上の回答者数80%以上)	計画	80%	80%	80%	80%	80%	80%
				実績	81%					
				備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「-」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況						
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
27		②毎年度、授業評価アンケートの結果を組織的に分析し、学内のPDCAサイクルを実現することにより、自己点検評価機能を強化する。	定性的 (毎年度組織的な分析実施)	計画	分析・評価実施	分析・評価実施	分析・評価実施	分析・評価実施	分析・評価実施	分析・評価実施	
				実績	○						
				備考							
		①各年度の長寿命化改修が本学の「キャンパスマスタープラン2021」に沿ったものとなるよう毎年度検証するとともに、学内のICT環境及び教育環境の整備を推進する。また、地形劇場(野外ステージ)及びサテライトギャラリーなどの学内施設の有効活用に向けて、方策を検討、実施する。	①各年度の長寿命化改修が本学の「キャンパスマスタープラン2021」の趣旨に沿ったものであるか、毎年度、有識者を交えて、建築環境評価・自然環境評価・教育研究評価の3つの面から検証・評価する場を設定し、必要に応じ計画の見直しを行う。	定性的 (毎年度キャンパスマスタープラン検証・評価)	計画	検証・評価	検証・評価	検証・評価	検証・評価	検証・評価	
					実績	○					
					備考						
		②Wi-Fi環境を第三期終了時点より拡充する。	②Wi-Fi環境を第三期よりWi-Fi環境拡充)	定性的 (第三期よりWi-Fi環境拡充)	計画	検討	設置 (拡充)	必要に応じ増設	必要に応じ増設	必要に応じ増設	必要に応じ増設
					実績	○					
					備考						
		③地形劇場について、有効活用に向けて、毎年度、授業の成果発表や外部と連携した演奏会等を開催する。	③地形劇場について、有効活用に向けて、毎年度、授業の成果発表や外部と連携した演奏会等を開催する。	定性的 (毎年度企画実施)	計画	企画実施	企画実施	企画実施	企画実施	企画実施	企画実施
					実績	○					
					備考						
		④サテライトギャラリーの在り方を見直し、第四期最終年度までに、外部企画者による質の高い展覧会を開催する。	④サテライトギャラリーの在り方を見直し、第四期最終年度までに、外部企画者による質の高い展覧会を開催する。	定性的 (サテライトギャラリーでの外部企画者による展覧会開催)	計画	調査	検討	第1期開催	検証	検証 (改善)	第2期開催
					実績	○					
					備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「-」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
28	学生の多様なニーズに対応するため、さらなる就職支援の充実を図る他、新たにアーティスト育成のためのサポート体制を構築し、多面的かつ包括的なキャリアパス形成支援を行う。また、学生生活に必要な支援を調査、分析のうえ、方策を検討し支援体制を整備する。 【重点的計画】	①各種説明会、ガイダンス等のアンケートにおいて、満足度が5段階評価で4以上と回答する参加者の割合を毎年度80%以上とする。	定量的 (毎年度評価4以上の回答者数80%以上)	計画	80%	80%	80%	80%	80%	80%
				実績	100%					
				備考						
		②芸術専門分野における学外主催のコンクール等において、在学生の受賞実績を毎年度50件以上とする。	定量的 (毎年度在学生の受賞実績50件以上)	計画	50件	50件	50件	50件	50件	50件
				実績	107件					
				備考						
		③学生の休退学等の異動状況を分析し、経済的支援及び学生相談体制を整備する。	定性的 (体制整備)	計画	調査	検討	第一次体制整備	検証	検証(改善)	第二次体制整備
				実績	○					
				備考						
29	芸術活動への意欲が高い人材を選抜するため、入学者選抜方法を点検・検証し、改善を図る。また、受験生に向けたイベントや大学Webサイト等を通じて、大学の特色、魅力をPRすることにより、芸術大学に相応しい多様で優秀な入学者を確保する。	①志願者動向の分析を毎年度実施し、入学者選抜方法の見直しなど志願者確保に資する取組を実施する。	定性的 (毎年度改善策実施)	計画	問題点抽出改善策実施	問題点抽出改善策実施	問題点抽出改善策実施	問題点抽出改善策実施	問題点抽出改善策実施	問題点抽出改善策実施
				実績	○					
				備考						
		②音楽学部において、全国の同窓会支部と連携し、小中学生を含む生徒を対象とした公開レッスンを実施するなど、志願者の裾野を広げるための事業を毎年度実施する。	定性的 (毎年度事業実施)	計画	事業実施	事業実施	事業実施	事業実施	事業実施	事業実施
				実績	○					
				備考						

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「－」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
		③新たに受験志願者の指導者を対象とした大学説明会の開催を検討し、第四期終了時点までに5件以上実施する。	定量的 (指導者向け大学説明会実施件数5件以上)	計画	(検討)	1件 累計1件	1件 累計2件	1件 累計3件	1件 累計4件	1件 累計5件
				実績	—					
				備考						
30	教員による展覧会・演奏会などの芸術活動を推進し、その成果を地域に還元する。また、海外の大学や芸術家、学術機関等との芸術を介した研究交流事業を推進する。	①美術学部教員による展覧会及び音楽学部教員による演奏会を毎年度合計50件以上実施する。	定量的 (毎年度開催件数50件以上)	計画	50件	50件	50件	50件	50件	50件
				実績	98件					
				備考						
		②国際的な芸術・研究交流プログラムを毎年度5件以上実施する。	定量的 (毎年度プログラム実施件数5件以上)	計画	5件	5件	5件	5件	5件	5件
				実績	11件					
				備考						
31	地域文化の発展に資する研究を引き続き推進するとともに、その多様化を目指し、分野を越えた横断的研究や、県立大学、産業界を含む他の研究機関等と連携した研究を推進する。 【重点的計画】	①受託研究、研究に関する受託事業、他の研究機関との連携研究を毎年度10件以上実施する。	定量的 (毎年度連携研究等実施件数10件以上)	計画	10件	10件	10件	10件	10件	10件
				実績	35件					
				備考						
		②URA人材の登用、サバティカル制度の導入などにより、研究者の支援体制を整備する。	定性的 (研究者支援体制整備)	計画	準備・検討	準備・検討	制度導入 (体制)整備	検証	必要に応じ 再検討	評価・改善
				実績	△					
				備考	[未達理由等]県大に設置予定のインキュベーション施設における連携等も見据えた一体的な体制整備に向けて調整中。両大学トップにて意見交換を実施。					

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
32	愛知県をはじめ、自治体、他大学、産業界、文化施設等との連携による地域貢献・課題解決を推進する。また、展覧会・演奏会、病院アウトリーチを含むインクルーシブ・アートの拡充等により、県民が芸術に親しむ機会を創出する。	①外部有識者を構成員とする学長諮問会議を設置することにより、産業界とのネットワークを構築する。	定性的 (学長諮問会議の設置)	計画	準備・検討	設置	検証	→	必要に応じ再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						
		②地域貢献に資する展覧会・演奏会・芸術講座、病院アウトリーチやインクルーシブ・アート等の事業を毎年度50件以上実施する。	定量的 (毎年度事業実施件数50件以上)	計画	50件	50件	50件	50件	50件	50件
				実績	74件					
				備考						
		③大学が主催する展覧会・演奏会・芸術講座について、外部アンケート(来場者、依頼者等)及び内部アンケート(事業に参画した学生、卒業生等)において、満足度が5段階評価で4以上と回答する参加者の割合を第四期最終年度に75%以上とする。	定量的 (満足度評価4以上の回答者数75%以上)	計画	→	→	→	→	→	75%
				実績	外部97.3% 内部91.6%					
				備考						
33	大学のブランドイメージを確立するため、学内の教育研究、地域連携及び芸術活動状況を積極的に発信する。 【重点的計画】	①学長直下に広報の組織を設置し、全学的なブランド力向上のための取組を実施する。	定性的 (広報組織設置)	計画	設置	企画実施 (周年事業)	企画実施	企画実施	必要に応じ再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						
		②教育研究、地域連携及び芸術活動の成果を発信する体制を整備する。	定性的 (体制整備)	計画	準備・検討	→	→	体制整備	必要に応じ再検討	評価・改善
				実績	○					
				備考						

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「－」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況						
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
34	理事長、両大学長を中心とした会議を定例的に開催し、法人全体の一体的な運営を行うためのガバナンス体制の強化に取り組むとともに、学長のリーダーシップにより教育、研究、地域連携・貢献の成果が最大化されるよう、マネジメントのための取組を推進する。	①理事長、両大学長を中心とした会議の決定内容を共有し、実行する体制を強化する。	定性的 (体制の強化)	計画	検討・強化	実施	実施	点検・見直し	実施	実施	
				実績	○						
				備考							
		②毎年度、中期計画の進捗状況について、可視化・共有し、大学運営に資する仕組みを構築する。	定性的 (毎年度分析・報告)	計画	検討	分析・報告	分析・報告	分析・報告	分析・報告	分析・報告	分析・報告
				実績	○						
				備考							
35	愛知県立大学と愛知県立芸術大学の特色の強化に向けて、教育研究や地域貢献における両大学の連携を一層促進するとともに、その成果を発信する。 【重点的計画】	①毎年度、2大学連携事業を実施し、その成果を発信する。	定性的 (事業の実施、成果発信)	計画	実施・発信	実施・発信	実施・発信	実施・発信	実施・発信	実施・発信	
				実績	○						
				備考							
36	愛知県をはじめとするステークホルダーとの密なコミュニケーションにより、法人及び2大学に求められる役割や期待の変化を把握し、外部からの多様な意見や助言を踏まえ、必要に応じて教育研究組織・人員体制の検証、見直しを行う。	①愛知県との意見交換などによりニーズを把握の上、対応方針を策定し、実施する。	定性的 (ニーズ把握、対応方針の策定・実施)	計画	ニーズ把握 方針策定	ニーズ把握 →	ニーズ把握 →	ニーズ把握 →	ニーズ把握 →	ニーズ把握 →	
				実績	○						
				備考							
37	教育研究活動及び大学運営の質の向上と活性化に向け、時代の変化に合わせて人材育成方針や人事諸制度を適切に改定・運用し、外部の知見も取り入れながら不断の見直しを行う。	①長期的な人材育成に向け、第四期終了時点までに正規職員の割合を65%以上とする。	定量的 (正規職員割合65%以上)	計画	55%	57%	59%	61%	63%	65%	
				実績	57.2%						
				備考							

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「－」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準		進捗状況					
					2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
		②社会情勢や外部有識者の意見を踏まえ、人材育成方針、人事諸制度を見直しを行う。	定性的 (人材育成方針、人事諸制度の見直し)	計画	見直し	→	→	→	→	→
				実績	○					
				備考						
38	教職員の定着・活躍に向け、全教職員のワーク・ライフ・バランスの取組や多様な働き方を推進するため、在宅勤務等を考慮した体制の整備を行うとともに、女性の管理職への登用推進を実施する。	①2026年度末までに、AIRIS(情報基盤ネットワークシステム)に在宅勤務機能を導入する。	定性的 (在宅勤務機能の導入)	計画	導入計画策定	導入	機能改善	→	→	→
				実績	○					
				備考						
		②第四期終了時点までに、県派遣職員を除いた教職員の管理職のうち女性の比率を40%以上とする。	定量的 (教職員管理職の女性比率40%以上)	計画	→	→	→	→	→	40%
				実績	35.0%					
				備考						
39	効率的、機動的な組織運営、教育研究のサポート機能の向上のため、DXの推進による業務や手続きにおける情報システムの積極的な活用等を推進するとともに、前例に捉われない組織・業務の見直しなどを推進する。 【重点的計画】	①2025年度末までにDX推進方針を策定し、実施する。	定性的 (DX推進方針策定・実施)	計画	方針策定	実施	→	→	→	→
				実績	○					
				備考						
		②2026年度末までに新たな業務システムとして電子決裁システムを導入し、運用する。	定性的 (電子決裁システム導入)	計画	検討	運用開始	利用状況確認	適宜運用見直し	⇒	⇒
				実績	○					
				備考	※当初予定より1年前倒しでシステムを導入したため、2026年度以降の計画も1年前倒しに修正。					

定性的指標：「○」＝進捗が良好である、「△」＝進捗に遅れがある / 定量的指標：「－」＝数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準	進捗状況						
				2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
40	外部研究資金や寄附金などの自己収入の増加に向けて、ステークホルダーに対し教育研究活動を効果的に発信するとともに、事業への参画や支援への働きかけを実施する。	①自己収入の増加に向けた具体的な取組を掲げる基本方針を2025年度末までに策定し、新たな収入確保の手法を導入する。	定性的 (基本方針の策定)	計画	基本方針策定	基本方針・個別要綱策定	実施	実施・検証	実施・検証	実施・検証
				実績	△					
				備考	[未達理由等]方針に掲げる具体的な取組の検討に時間を要しているが、2026年度に実効性のある基本方針と個別要綱を策定見込み。					
41	安定的な財務運営を実現するため、効率的な経費の執行に努めるとともに、中期目標を踏まえた重点的な取組に即した予算配分を行う。	①毎年度の予算編成において、2024年度当初予算の事業費(通常財源による支出予算から人件費、水道光熱費、リース経費、施設整備費を除いた額)の3%と同額以上の予算を重点事業費として確保する。	定量的 (重点事業費3%以上確保)	計画	3%	3%	3%	3%	3%	3%
				実績	3%					
				備考						
42	中期計画の進捗状況について、自己点検・自己評価や外部評価等を行い、評価結果を公表するとともに、法人内で適切に周知し、適宜、教育研究及び業務運営に反映する。	①毎年度、中期計画の進捗状況を確認し、法人評価委員会の意見を踏まえ、課題に対し具体的な対応を立案し、実行する。	定性的 (計画進捗管理、具体的対応の立案)	計画	対策立案・実行	対策立案・実行	対策立案・実行	対策立案・実行	対策立案・実行	対策立案・実行
				実績	○					
				備考						
43	大学の教育研究、社会貢献(地域貢献)の成果や業務運営等の情報を、多様な媒体を活用して発信し、効果を検証することにより、戦略的な広報活動に取り組む。 【重点的計画】	①2026年度末までに広報グランドデザインを策定し、実行する。	定性的 (広報グランドデザインの策定、実行)	計画	基本方針策定	広報グランドデザイン策定	実行	実行	実行	総括・改善
				実績	○					
				備考						
		②メディア掲載件数を第四期終了時点までに第三期最終年度より20%以上増加させる。	定量的 (メディア掲載件数の増加率)	計画	→	→	110%	→	→	120%
				実績	126.9%					
				備考	※第三期最終年度掲載件数:208件					

定性的指標:「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標:「→」=数値なし

項番	中期計画	指標	評価基準	進捗状況						
				2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	
44	施設・設備の点検を定期的に行うとともに、施設整備・ICT環境整備を計画的に実施する。	①法人所有施設の中長期保全計画に基づき、施設の長寿命化に向けた修繕・整備を実施する。	定性的 (修繕・整備の実施)	計画	修繕・整備	→	→	→	→	→
				実績	○					
				備考						
		②AIRIS(情報基盤ネットワークシステム)を2026年度末までに更新し、第四期終了時点までに、無線ネットワーク環境の拡充により、講義室におけるWi-Fi整備率を100%とする。	定量的 (講義室におけるWi-Fi整備率100%)	計画	(検討)	90%	92.5%	95%	97.5%	100%
				実績	—					
				備考						
45	大災害発生時の教育研究の維持・再開を視野に入れた危機管理体制を一層強化するため、業務継続の計画・管理体制について継続的に点検・見直しを行う。	①業務継続計画(BCP)について、定期的にシミュレーションを行うことにより点検し、見直しを行う。	定性的 (シミュレーション実施、見直し)	計画	検討	シミュレーション実施	見直し	シミュレーション実施	見直し	シミュレーション実施
				実績	○					
				備考						
46	法令や学内規程の制定・改定に係る学内周知やコンプライアンス研修等を通じて、教職員の社会的規範の遵守徹底を図る。	①コンプライアンス研修などの各種研修について、教職員全員を対象として毎年度実施する。	定性的 (毎年度各種研修実施)	計画	研修実施	研修実施	研修実施	研修実施	研修実施	研修実施
				実績	○					
				備考						
47	定期的な監査や日常的モニタリングなどによる内部統制を推進し、適正な業務運営を図る。	①リスク管理の状況を毎年度確認し、その対応策について周知徹底する。	定性的 (毎年度確認・周知徹底)	計画	確認・改善	確認・改善	確認・改善	確認・改善	確認・改善	確認・改善
				実績	○					
				備考						

定性的指標：「○」=進捗が良好である、「△」=進捗に遅れがある / 定量的指標：「—」=数値なし